

千葉歴史の散歩道

養老川流域田淵の地磁気逆転地層が 国の天然記念物に指定されます

文化財課指定文化財班文化財主事

みずの たいき
水野 大樹



平成30年6月15日、国の文化審議会は文部科学大臣に対し、「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」を国の天然記念物に指定することを答申した。今後、官報に告示されると正式に天然記念物に指定される。



写真1 養老川とそびえたつ崖

養老川流域田淵の地磁気逆転地層は、養老川中流域の市原市田淵にある。この地域では、平らな川底の両側に切り立った崖がそびえ立つ独特な地形が見られるが、これは、房総丘陵が隆起するスピードが速いことと、養老川流域が砂泥質の柔らかい地層でできており侵食されやすいことが相まって形成されたものである（写真1）。この地層は、約77万年前に地球上で起こった最後の「地磁気逆転現象」の記録が良好に保存されていることから、今話題を集めている。

地磁気の逆転が起きたこの時代は、前期更新世と中期更新世の境界と定められているが、世界中でその時代の境界を示す模式的な地層が見られる場所（国際標準模式地）が決まっていない。現在、国際地質科学連合において、国際標準模式地を決める審査が行われ

ており、この地層が模式地の有力候補になっている。認定された際には、約77万年前から12万6千年前の時代が「千葉時代」を意味するチバニアンと呼ばれることとなるため、注目を集めている。

一躍有名になったこの地層（写真2）だが、この場所ではもともと地磁気の逆転現象を示す地層として地質学者の間では有名であり、研究が進められてきた。また、地磁気の逆転境界付近には白尾（びゃくび）火山灰層（Byk-E）と呼ばれる、現在の御嶽（おんたけ）山付近から飛来した火山灰の層が見られることから、地磁気が逆転した時期の地層が露頭のどの位置にあるか理解しやすい。さらには、当時に生息していた生物の化石が産出することから、地磁気逆転が起きたときの環境を知ることができる。これらの学術的価値が総合的に評価され、今回、国の天然記念物に指定されることとなったのである。

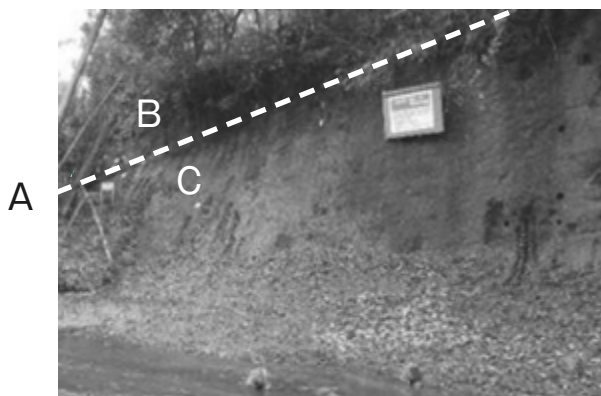


写真2 地磁気の逆転境界が見られる露頭

- A：白尾火山灰層（Byk-E）（約77万年前）
B：中期更新世の地層（Byk-Eより上層。認定されればこの年代がチバニアンと命名される）
C：前期更新世の地層（Byk-Eより下層。）

千葉教育 萩（No.651） 平成30年8月31日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター（代表）秋元 大輔

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc>

印刷所 株式会社白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5 TEL 043-423-1101